

全日本私塾教育ネットワーク

<http://www.shijuku.net>



二三度の 雪に打たれて 梅たしか

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 仲野 十和田
〒173-0005 東京都板橋区仲宿53-10 ナカジユク内
TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529
Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理事長 谷村 志厚
047-368-2729
広報部長 監物 一男
048-688-6903

年頭のご挨拶

私塾ネット会長 山口 恭弘



新年明けましておめでとうございます
先日日本屋で「塾業界からジャブジャブと献金を貰う灰色癒着」という見出しのでているサンデー毎日を見つけ購入しました。下村博文内閣官房副長官に対する記事ですが、読んで不快になるような内容です。

私は最近おりにつけ塾業界は世間に認められたといってきましたし、そう思ってきました。しかし、昨年末の教育再生会議における「塾禁止」発言や今回の記事を見ると、いまだ塾に対して厳しい見方をする人が多いと感じます。

私も会員である博友会も槍玉にあがっていました。しかしこの会は下村先生を軸にして日本の教育を良くするため何をすべきかを勉強する会なのです。けしてこの記事で暗にほのめかしてあるような集金組織ではありません。塾が主体になっている団体と言う事だけで後ろめたい事をしているような記事の書き方には、怒りを通り越して驚いてしまいました。

私は、塾は現実には日本の教育になければならないものだと考え、それをよりよいものにしていく事が使命だと思っています。しかし、なかには公教育を過大評価し塾の存在意義を認めない人も多くいるのです。我々塾業界は偏った意見が流布されても一般の人が受け入れられないような雰囲気造りをしなければなりません。

私塾ネットもその為にあります。会員の皆様にはまず今年1年智恵を出し合い、今年の年末にはよい年だったといえる年に、頑張りましょう。

私塾ネット理事長 谷村 志厚



2007年の年明け早々、首都圏では中高入試もいよいよ本番です。当方の所在地千葉県では、1月16日から私立高の前期入試が、引き続き20日から中学入試が解禁となりました。27日からは私立高校後期入試が実施され、1月中には19年度入試がほぼ完了する状況です。公立高校入試では、2月6日に推薦入試に相当する特色化選抜入試がおこなわれることから、2月上旬には19年の入試の大山を越えることとなります。年々早期化する入試日程のため、受験学年の2月授業の空洞化もすみ、年度末の入退塾対策に工夫が求められています。

さて、今年2007年はいかがな年となるのでしょうか。いささか失速ぎみとはいえ、教育政策を最重要課題にかかげる安倍内閣の今後の動向は、民間教育機関としての私塾の世界に少なからずの影響を与えることでしょう。その施策のなかでも私塾に直接影響が現れそうなのは、この4月から全国展開される

文科・厚労省連携の「放課後子どもプラン」です。計画では全国2万余の小学校区で、小学全学年を対象とした「放課後子ども教室」を運用するとしています。実施主体が市町村教育委員会のもとに置かれる推進委員会になるため、地域による温度差が大きいものとおもわれます。しかし、中学入試指導に特化できない地域総合、補習塾では無視できない状況が出現するのではないのでしょうか。全国にネットを結ぶ当会としては、広くアンテナを張り巡らし今後の各地の動きを注視したいと思います。

私塾ネット関東 代表 鈴木 正之



関東は、定例会と研修会（定例、宿泊、訪問、教務）を中心に活動。さらに、昨年家族や職員をご招待してニューイヤーパーティを開催。又、他団体のイベントへの協力も積極的にしてまいりました。今年は、次の2つの

事を考えております。1つは会員塾発展のための共同事業として、関東70塾の塾名が入った共同広告出すことと、私塾ネットの塾の案内や苦情、教育相談を受け付けるインフォメーションセンターを設置することです。それにより、私塾ネット加盟塾が、安心して通える塾であり信頼できる塾であることをアピールしていきたい。2つ目は学習塾団体としての意見を取りまとめ、何らかの形で行政にアプローチをすることです。行政が決定したことに合わせていくのではなく、積極的に学習塾業界、教育界を変えていくことが必要であると考えます。そのためには皆様のご理解とご協力が必要です。今年もよろしくお願いたします。

エリア 代表 湯口 兼司



皆さん明けましておめでとうございます。昨年は楠山実行委員長のもと、四国鳴門に於いて『塾の日フェスティバル2006 in TOKUSHIMA』が開催され、協会はもとより全国の各団体の協力、特に私塾ネットの仲間が日本中から駆けつけて応援していただきました。皆さんのお陰で大会も大いに盛り上がり、大成功のうち終わることが出来ました。本当にありがとうございます。

平成13年6月、21世紀の始まりとともに旧三団体が結集し全日本私塾教育ネットワークが誕生いたしました。新体制の下、私塾ネット四国においても新しい会員も多数入会し、年2~3回のイベントではありますが活発にかつ有意義な活動が出来たと自負しています。会員相互の親密度もイベントを行なう度に増し、各県単位の情報交換から塾見学にいたるまでお互いが刺激を与え、受けることによって次ぎへのステップに繋がっていったと考えています。また四国はイベントへの参加率が高く、仲間の仲

のよさを表しているし協力しようというみんなの優しさをも表していると強く感じています。

学習塾を取り巻く環境自体は決して良いものではありませんが、四国の仲間は元気者が揃っていますし、これまでの厳しい中、それぞれ状況は違っても頑張り続けた塾ばかりです。未来は明るいと考えています。今年も自塾のポリシーを大切に、生徒達にとって何が一番かを中心に置き、頑張ろうではありませんか。

谷村理事長はじめ私塾ネットセンターの皆さん、いつもご協力ありがとうございます。またいつも四国のことを気にかけて、アドバイスして頂ける山口先生、

今年も四国はやりますぞ！

私塾ネット中国 代表 北川 健治



新年明けましておめでとうございます。昨年は子供にまつわる忌まわしい事件が続発いたしましてかけがえのない輝く瞳が光を失うような一年でありました。限りない可能性を秘めた子供たちの将来を心から願う全国の私塾の同志の皆様、がっちりスクラム組んで子供以上に元気ががんばっていききたいものです。さて、私ども中国エリアは「癒しとくつろぎと情報交換」を不動のスローガンとして、本年はアウトソーシングに明け暮れたここ10年を俯瞰してその反省も込めて、学習塾のベーシックな「力をつける塾の指導」、「塾経営の健全さ」の2点を柱に定例会の充実を図っていこうと思います。学習塾における「読む」「話す」「書く」という基本をどれだけ充実させるかが生き残りをかけた研修です。学校は塾化したければそれもいいでしょうが逆説的に言えばわが国の教育のリーダーたるわれわれはあくまでも塾という現場を信じて、基本に徹底していく中にこそ生き残りは無いと思うからです。本年も宜しくお願い致します。

中部エリア 代表 松本 紀行



あけましておめでとうございます。会員の皆様と共に新春を寿ぎたいと存じます。

日本の将来を左右する教育再生会議の行き先がとても気になりつつも、目先の仕事に追われて居ります。子供たちの幸せ、社員の満足、会社の発展等々を考えながらする塾経営というものに、良いか悪いのかがわかりませんが、私はワクワクしながら、熱中して居ります。私自身、あと10年位はワクワクしていたいなあと考えて居ります。

塾を経営されておられる全国の皆さんが、長年に渡り、手塩にかけて育成された子供たちが、今や塾

パワーを持った立派な社会人として、地域社会で活躍して居られます。もし、「私達塾人が誇れるものは何か？」と問われたら、それは「私達の仲間が一千万人を超すであろう若者を育ててきたことだ」と答えます。こんな時は「塾やってきてよかったなあ」とつくづく考えます。戦時下の統制教育ではなく、日本全国にいろいろな教育を咲かせ、にぎやかな教育文化の原点に塾がなれたらいいなあと思います。時折、島本先生を始め、今は亡き浅沼会長、恩田会長の情熱を思い出します。「生徒に愛情がなくなったら、塾をやめなさい！！」は、キツかったですね。先輩たちの想いが、この私塾ネットの中に脈々と流れているんですから、大切に育てなくては叱られます。

最後になりますが、私塾ネットの益々の発展と、会員の皆様のご繁栄を心からお祈り申し上げます。

私塾ネット東北 代表 畑山 篤



今年も 教務・経営の研修 教育進
学情報 親睦交流を「三つの柱」として「私塾ネット東北のメッセージをしっかりと東北エリアの学習塾の皆様

に伝える」という活動目標に向かって微力ながら一所懸命務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。全国の諸先輩方、東北エリアの先生方、これまで同様ご指導ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

私塾ネット北海道 代表 入江 昌徳



現行の指導要領の枠内で指導される小中学生(高校生も含むが)は、戦後もっとも不幸な子どもたちになるだろうと思っていた(この指導要領は、これ一回が底で、その後は揺り返して、徐々に難しさを取り戻していくことは明らかだったから...)

ところが安倍内閣は、指導要領こそ以前の水準に徐々に戻していこうとしているようだが、それ以外の全ての面に渡って、戦後もっとも不幸な子ども達の時代を作ろうとしているように見える。拳句の果てに、野依発言である。

この国の指導者や国に意見を述べる立場の人間は、いったい子どもたちをとすることはこの国をどうしようとしているのだろうか？安倍さんの「美しい国」って一体何なのだ！

政治レベルで彼らと戦うつもりは毛頭ないが、私は生徒指導の現場で、この政治の流れに巻き込まれることなく、本物の学力を小中学生につけていく指導を体力の続く限り、やり続けて行きたい。今年もそのつもりであります。

合同忘年会・情報展・新年会

レポート 谷村 志厚

2006年塾団体合同忘年会 出席者266名の大盛況

2006年12月3日、東京は池袋のホテルメトロポリタンで恒例の塾団体合同忘年会が開催された。当日はまず午後2時から、佐藤先生のお世話による全日本学習塾連絡会議が開かれ、それに続いて東京私塾協同組合（岡田保雄理事長）主催の2006年研修会が行なわれた。



壇上でご挨拶をされる内閣副官房長官下村博文氏

午後5時会場を隣の大宴会場に移して合同忘年会となった。忘年会は東京私塾協同組合が主催し、社団、塾組合、NPO塾団体そして任意団体私塾ネットが協賛する、首都圏の歳末一大行事である。今回の忘年会には塾関係89名、学校関係129名、企業関係48名の計266名が参集した。

会は主催団体の挨拶に続いて、東京私立中高協会の近藤彰郎会長が主賓挨拶で壇上に立たれた。おりから高校未履修問題でなにかと騒々しい時期であったのだが、近藤会長は同問題でも文科省の対応をバツサリと斬る痛快なスピーチ、これには満場の拍手がわき起こった。続いて壇上に上ったのが、安倍新内閣で内閣官房副長官に就かれた下村博文代議士。私塾界で大注目の下村氏の、これも自信たっぷり強気な発言に会場は大いに盛り上がった。その後社団石井会長のご挨拶、声の教育社小泉専務の乾杯と式次第は進む。だがいずれ劣らぬ一家言ある論客ばかりとあって、祝いの盃が干されるのに小一時間を要した。これには正直会場の皆さんは、少々うんざりのご様子であった。

私塾ネットからの出席者は理事長の谷村以下鈴木、梶原、安藤、佐藤、加藤、監物、他の10余名。お互いに一年の労をねぎらいつつ、来春の受験で接点の多い私学の先生方との交流に歳末のひと夜を過ごした。

ところで、この忘年会のあと一週間ほど後、各地

でノロウイルス感染騒ぎが勃発した。東京での震源地が、何を隠そう忘年会の会場となったホテルであったことがTV報道で判明した。それも忘年会当日が発生日で、宿泊客の嘔吐物から蔓延したとのことであった。しかし幸いにも階の違う宴会場でのパーティーであったので、忘年会出席者には感染者は見られなかったようだ。それにしても最後の最後まで



各方面からのご祝辞に耳を傾ける出席者の皆様

何かと話題の多い忘年会であった。

塾に役立つ情報展 I N 東京 2007年1月14日(日) 新宿NSビルB1イベントホール



来年度のテキストはどれを使用しようかと
広い会場内で談話する先生方

主催：全国学習塾協同組合・NPO塾全協
レポート 鈴木 正之
恒例の「塾に役立つ情報展」が好天に恵まれた新宿

企業が出展。ミニセミナーも行われ多数の先生方が参加された。今回の「情報展」は全国学習塾協同組合が当番団体を運営を担当した。実行委員長は『私塾界』に連載中の高嶋哲夫先生である。(ちなみに高嶋先生はサントリーミステリー大賞作家で、今年の冬に上映予定の竹内結子がヒロインの映画「ミッドナイトイーグル」の原作者である。)

全国学習塾協同組合は、私塾ネットから谷村先生、田中宏先生、磯先生、浅輪先生、私鈴木の5人が理事となっている団体である。当日は他に長江先生、桂馬先生、監物先生、竹内先生、安藤光先生、そしてナカジユクのスタッフが実行委員としてお手伝いいただいた。今年の「情報展」には400名~500名が参加したと思われ、盛況な会となった。実行委員のひとりとして、協力してくれた先生方、参加された先生方に本当に感謝している。

「情報展」は学習塾の先生方全員で協力し参加することで活性化する。「情報展」が活性化すれば、多くの企業が出展することになる。そして、それは我々にとって多くの情報を得る事ができるイベントとなる。塾団体に所属していない塾の先生方にも来ていただき喜んでいただければ、ますます有意義なイベントとなる。当日、全国学習塾協会は午前中に、PALOS個別指導システムの研修会、私塾ネット関東の研修会は午後に行われた。これらの会議や研修会の開催も今回の動員につながったと考えられる。来年も、新年の顔合わせは「情報展」で!

塾団体合同新年会

レポート 仲野 十和田



新年の挨拶をする社団会長の石井正純先生

1/14(日)、学習塾合同新年会が情報展に引き続き、場所は新宿ワシントンへ移して行われた。実は私(仲野)、新年会の記事を担当していることをすっかり忘れていまして、締め切りを前にして流れや挨拶の内容が思い出せず、困惑しています。ということで、私の周りで起こっていたことを書かせて

いただきますこととお許しください。

会場に入ると楠山先生が入り口のところにいらっしゃいました。いつものように独特の雰囲気です。そして親しみやすい風貌を見かけると、つい近寄っていきたくってしまいます。徳島の泡踊りの話に盛り上がりました。「声の教育社」小泉専務による乾杯のご発声で会が和やかにすすんでいきました。奥の方へとことごと行くと私塾ネットのグループが…。昨年入会してくださった社員研修で定評の高い佐久田昌知先生(青葉学院)、読売ウイークリーの高校「合格力」ランク公立首都圏で3年連続1位の清水貫先生(誉田進学塾)には、全国研修での講演依頼中です。森保先生(大成高校)は、学校が大変な時期を乗り越えて、今年は募集人数が大幅に増えたと喜びの表情でした、さすが! 川並芳純先生(聖徳大学付属中学校高等学校)は、今年の大学合格実績が急激に良くなっていることに対し「コツがわかった」と頼もしいお言葉。近隣の小学生の保護者の方々にメッセージを送り続けている川合正先生(京北学園)には、自塾での保護者会の講演をお願いしています。

関東代表の鈴木正之先生と宇宙里佳子先生(アルファ塾)とは、New Years Partyの内容に花が咲きました。宇宙先生の加勢で、会がぐっと盛り上がりそうです。事後報告をお楽しみに!

松浦先生に「たまにはまともな写真を撮ってくれ」とお叱りを受け、ハイポーズ! 一輪の花は宇宙里佳子先生です。



新年会でほろよい気分の、左より鈴木、宇宙、谷村、松浦、自称私塾ネット酒豪グループ

ということで、私塾ネットの面々はほとんどくじ引きにも当たらず、元気に2次会へ去って行きました。

2007年度 全国塾長・職員研修大会

『営みを経て人を幸せにする それが経営』

～ 1+1が2以上になる人組みと教育 ～

私塾ネット研修部長 田中 宏道

全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット）は、設立から7年目を迎えました。これまでの全国研修会では、我らの会員である「全国元気塾からの提言」や「教育コーチングワークショップ・協力成基学園」「夢の学校の創り方・協力片山学園」「感動創造・モチベーションアップ牛角では・協力サードステージカンパニー」「感即動 生徒が感動する授業の創り方・協力アビトレ」などを手がけ、受講された全国の塾様にたいへんな好評を得てまいりました。

教育再生が叫ばれる昨今、以前では考えられないほど学習塾への社会的認知が高まっています。保守的で変化を嫌う教育業界。「狭い意味での」学習塾の枠を取り払い、一つの教育機関として各界の最先端研究を取り入れながら「人の幸せ」創造を今まさに真摯に考えることが必要なのでしょう。

さて、今回も全国各エリアで活躍している会員塾のノウハウを大公開いたします。また、「幸せ創造のための人と組織のあり方」に焦点を当て、アメリカ国防総省（ペンタゴン）国際戦略研究所で組織戦略を研究し、「最適組織編成プロジェクト」に参加、FFS理論（最適組織編成のための個性分析と組織編成法）を構築されたコンサルティング会社（株）インタービジョン会長であり、教育学博士、経済学博士、経済同友会幹事、南伊豆20万坪の塾「禅家」所長でいらっしゃる小林恵智先生にご講演いただきます。

学習塾のみならず、私学の先生はもちろん、教育に携わる方々に是非お勧めの研修会です。ぜひお越しくださいませ。"

開催日 2007年4月22日（日）
会場 品川プリンスホテル新館 品川駅前（高輪口）駅から徒歩2分

第一部 研修会 午後2時00分～5時20分

プロローグ 午後2:10～2:40
『恒例！ 私塾ネット 元気塾ノウハウ公開！』
10分ミニ講演

北海道・東北エリアから 代表 畑山 篤先生
関東・中部エリアから 調整 中

中国・四国エリアから文化の森スクール
（代表 近藤誠介先生）

帝国ホテルと同じ照明を使ったハイセンスな教室
エピソード 午後3:00～5:00

『営みを経て人を幸せにする それが経営』
1+1が2以上になる人組みと教育

（株）インタービジョン会長 小林 恵 智
エピローグ 午後5:00～5:20 第
一部 閉会式

第二部 『私塾・私学・教育企業懇親会』
午後5時30分～7時30分

講演者略歴（敬称略）

小林 恵智（こばやし けいち）

教育学博士・経済学博士 株式会社インター
ビジョンコンソーシアム会長

経歴

1950年東京生まれ。専門：組織心理学、経済・経営
心理学、教育心理学

国際基督教大学を経てウィーン大学哲学部卒、同大
学修士課程で心理哲学専修の後、フロリダ州立大学
博士課程で教育心理学・経営心理学を研究。さらに
ノースウェスタン大学で経済学・組織経営の研究お
よび教育に従事し、1976年モンリオール大学国際
ストレス研究所、ハンス・セリエ博士の下で「スト
レスと性格特性」に関する研究と人工頭脳研究の成
果から、1979年米軍の「最適組織編成プロジェクト」
に参加し、FFS理論（最適組織編成のための個
性分析と組織編成法）を提唱。

我が国においては、防衛産業から製造・販売・サー
ビス・情報・教育産業、公益法人に至るほぼ全ての
産業において経営戦略・戦術立案から実施代行・人
事組織関連業務の代行、各種団体の組織経営の代行
までの経験をもつ。同時に菜根譚農場内合宿研修所
「禅家」所長、両忘山活人禅寺で活人禅宗の管長や
（社）経済同友会幹事も務めている。

主な著作として

「コンピネーション・マネジメント 組織力の法
則」（中央経済社）、「人材の適正配置と最適組織

2007 NEW YEAR PARTY

In お台場『CAFE LA BOHEME』平成19年1月28日

関東エリア関東主催

日時 平成19年1月28日(日) 16:00~
場所 ラ・ボエム(お台場) 参加者 36名

昨年に引き続き、『ラ・ボエム』で“NEW YEAR PARTY”が開催されました。日ごろ不規則な生活で、なかなか家族サービスができないでいる奥様や子どもたちに、少しでも楽しんでもらおうというのがこの会の趣旨です。

午後3時30分。受付開始とともに、続々とファミリーが入場。やはり日ごろの研修会とは服装も表情も随分リラックスしている様子。外は曇り空でしたが、東京湾が絶景です。



会場「ラ・ボエム」からの東京湾の絶景

午後4時。総合司会は石川維雪先生。まずはエリア関東代表の鈴木正之先生のご挨拶。本来、この会をプロデュースすべき総務部長、渡辺浩先生のご息(2歳)が病気で入院中であることが報告され、みんなで協力していき、お子さんの回復を願おうとメッセージが伝えられました。余談ですが、鈴木先生は前日宇都宮で小学校時代の同窓会があり、最終の新幹線で戻って来たとのことで、飲み足らずに悔しがっていました。更に余談ですが、小学校時代の正之君は、2階の穴の開いた床に入り込み、屋根裏を伝わって校長室に行くなど、かなりのやんちゃ坊主だったようです。

乾杯の音頭は平林治先生。リラックスした中でも独特の緊張感を漂わすのはさすが私塾ネットのご意見番。温かい労いの言葉などをいただき、さあスタートです。

まず始めは、ただ今人気急上昇でなかなか機械も手に入らない、任天堂“Wii”によるテニス対決。6

グループに分かれた各グループの代表がトーナメントで競いました。決勝に残ったのは故中村成美先生ご息子の庸彦先生と仲野十和田愚息の太郎。度重なるデウスで会場を盛り上げましたが、優勝は中村庸彦先生でした。



ゲーム器「Wii」によるテニスの決勝戦

実は、今回のパーティーの景品の1つに“Wii”を出すと谷村理事長に伝えたところ、「当日会場で行った方がいいね」と、軽くて重いお言葉。幸い宇宙先生のお知り合いから入手することができ、夜な夜なセッティングとデモンストレーションを繰り返した甲斐があって、大スクリーンにテニスコートが映し出されたときは、涙が...



聖志君によるヴァイオリンの演奏

続きまして、小さなバイオリンを片手に、登場した

5歳。始めは緊張していましたが、小さな手が弦をすべり出すとかわいいメロディーが奏でられ、アンコールを含め見事5曲を演奏してくれました。とても上手でしたよ。お父さん、お母さんの応援が微笑ましかったです。

さて、お次はクイズ「ミリオニア」。ではなく、その上の単位の「ビリオニア」。ではなく『ビリはいや』。と、谷村理事長自らが司会とパワーポイントによる演出をしていただき、大いに盛り上がりました。とにかく、理事長のパフォーマンスは芸術の域に達していると思います。「あのおやじは何者だ!」...失礼ですが、素直な感想です。

*平林先生に質問を出している光景は、刑事が尋問しているようで愉快でした。

包まれました。とにかく景品が豪華なのです。見事『東京湾ディナークルーズ』をゲットしたのは、木谷塾の木谷先生。『ディズニーランドペアチケット』は鳴原えなちゃん(宇宙先生の姪っ子さん)、『Wii』は何と桂馬ゼミナールの桂馬辰尚先生。おめでとうございます。喜びの余り?ちょっと飲みすぎていたようですが...



今年はずきについている桂馬先生

《家に帰って我が奥様にインタビュー》

今日のパーティーはどうでしたか?

普段一緒に仕事(団体で)をしている方の顔が見られるので安心する。

鈴木代表の挨拶で出席できなかった会員(渡辺浩先生)を気遣うメッセージが伝えられるなど、心が温まった。

偉い方(平林先生のことでした)でも、丁寧にあいさつしてくださって私塾ネットのいい雰囲気伝わってきた。

誰にマイクを向けても上手に話すのは、さすが塾の先生。谷村先生はすごい!

私塾ネットには若い人や、初めて加わる人など、誰でも包み込むような、おおらかな雰囲気がある。

昨日の夫婦喧嘩が忘れられた。

- よかった、よかった!

ということで、「会員の、会員による、家族のための NEW YEAR PARTY」は大成功に終わりました。(仲野十和田)



谷村刑事に尋問される平林容疑者

またまた余談ですが、このクイズの賞金は1/14に行われた「塾に役立つ情報展」で、多くの会員&職員を動員したご褒美(AJCより)でまかなわれました。





ピンゴ器を回す石川副理事長と宇宙先生のご子息

さて、最後は待ちに待った「ピンゴ大会」。宇宙先生のご子息(聡さん)の演出で、会場は緊張感に

新入会員紹介 ようこそ私塾ネットへ

本号より新入会員の方のご紹介ページを掲載することとしました。前号の11月号以降入会の皆さんです。よろしくお祈りいたします。

ふりがな	そうがくしゃ		ふりがな	
塾名	創学舎 (法人名) (株)アガスト		代表者	柳 善一
住所	〒277-0852 千葉県柏市旭町 1-6-5 シマビル		T E L	04-7141-5101
			F A X	04-7141-5106
指導形態	クラス	指導年	U R L	www.sougakusya.com
			Eメール	
メッセージ & P R	 <p>「日々是好日」となるように努力します。よろしくおねがいします。</p>			

ふりがな	かいりんじゅく		ふりがな	はやし あきお
塾名	開倫塾 (法人名) (株)開倫塾		代表者	林 明夫
住所	〒326-8505 栃木県足利市堀込町 145		T E L	0284(72)5945
			F A X	0284(73)1520
指導形態	クラス	指導年	U R L	www.kairin.co.jp
			Eメール	
メッセージ & P R	 <p>この度は入会をお許し頂き有難く感謝申し上げます。一生懸命勉強させていただきますので、よろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。</p>			

推薦図書 小宮山博仁著 『子どもの「底力」が育つ塾選び』

文責 谷村志厚

私塾ネット名誉会員であり教育評論家として活躍をされている小宮山博仁先生が、昨年12月平凡社より新書版で『子どもの「底力」が育つ塾選び』を上梓された。小宮山先生はこれまでさまざまな場面で、その折々の教育問題に舌鋒するどい評論を発信されてきた。それも塾の現場に立脚した発言で、我々もおおいに勇気付けられ啓蒙されてきた。今回の新著では、21世紀のリテラシー(21世紀に生きるための技能や技術)に視点をおいた「子どもの底力」をテーマに、子どもの教育に責任を持つべき親の立場を説いている。これは別な側面からみれば、我々塾が今後どうあるべきかの指針ともなるもので、座右の書として傍らに一冊置くべき内容を含んでいる。

本書の構成は第1章の「今なぜ塾なのか」から始まる5章仕立て。巻末には「お子様に合った塾がわかるチェックテスト」なる付録が付く親切ぶりで、保護者ばかりか塾経営者に役立つ内容となっている。第1章では学力低下問題から21世紀のリテラシーを分かりやすく説

きおこしている。今となっては食傷気味の学力低下問題に、新たな肉付けがなされ新鮮だ。第2章「塾についてよく知ろう」以下、第3章「こんな塾には生かせたくない」、第4章「子どもはこんな塾に通わせたい」、第5章「本当の学力をつける塾の選び方」は、読者である保護者の視点を透かして読むと、塾経営にとってまことに示唆的であるといえる。

ご興味の向きはぜひご一読を。また保護者向け資料としてまとめてご購入をお考えならば、直接小宮山先生にご一報されてはいかがか。

平凡社新書 720円(税別)
2006年12月11日初版
著者 小宮山博仁
問合せ
小宮山式ネットゼミ
042-350-6150





私塾ネット東北 代表 畑山 篤

『2006県立・私立高校進学情報展』

主催 社団法人全国学習塾協会

後援 全日本私塾教育ネットワーク

去る平成18年12月3日(日)13時から青森県八戸市の三八教育会館大ホールにて、小学生・中学生及びその保護者の方々を対象に『2006県立・私立高校進学情報展』が開催されました。八戸市は本州の北の端、青森県にある人口約25万人の城下町。青森県と言えば、りんご、十和田湖、恐山...と連想される方も少なくはないでしょう。最近は「大間のまぐろ」も有名になりましたが、その大間は東京駅から2時間50分のJR八戸駅で新幹線を降りて車でさらに3時間余り北上しなければなりません。八戸市はりんごというよりは魚、十和田湖というよりは太平洋を臨み天然の芝生が一面に広がる種差海岸の町です。八戸市の地図上の位置は塾業界ですから「三陸リアス式海岸の起点」と言えばむしろわかりやすいかもしれません。実際、市内にある天然記念物のウミネコの繁殖地としても知られている「蕪嶋(かぶしま)」に三陸リアス式海岸の起点の碑があり、その前で記念撮影し「塾生に自慢できる」と仰っていた塾長先生もいらっしゃいました。

この催し物は平成5年から続いており、平成16年、17年の途中2年間は休止しましたが、14年で12回目の開催となりました。地元では塾が主催する毎年12月の第1日曜日の開催イベントとして定着してきました。今回の内容は「今年度県立高校入試説明会」「私立高校進学説明会」「三者面談直前学習個別相談会」が大きな柱で、その他お楽しみ大抽選会と小学生対象の「ジュニア英語体験学習会」も行われました。

「私立高校進学説明会」には10校の私学が参加。地元の4校の他に、函館ラ・サール中高、土佐塾中高、朝日塾中高、日本航空高、古川学園高、常盤木学園高の北は北海道から南は岡山、高知まで県外から6校の参加がありました。

県外からの参加が多いので前泊して下さる先生方との前夜祭も恒例となりました。今回の一番乗りは宮城県・古川学園高の教頭俣野聖一先生。二番手の山梨県・日本航空高の阿部一臣先生と二人で16時からのRAB青森放送ラジオの「あつし塾長の何でも教育相談コーナー」にゲストとして生出演していただきイベントの宣伝をお願いしました。17時には空路札幌から主催の常任理事入江昌徳先生が到着し志学塾ゆりの木通り教室へ。18時には私塾ネット副理事長石川維雪先生、事務局長仲野十和田先生も志学塾で合流。教室では小学生コース「チャレンジ100点」と高校生コースの「京大個別会」を少々見学されました。初めていらっしゃった仲野先生は大変熱心に見学されていましたが、二度目、三度目の入江先生、石川先生はお腹の空き具合に気持ちが...。19時から屋台村「みろく横丁」へ。八戸は南部藩の城下町として栄え、今でも町名に「三日町、六日町、八日町...二十八日町」と市の立った名残があります。三日町から六日町に抜ける路地を三と六から「みろく横丁」と名付け、すべて7席のカウンターのみの27軒の屋台が並んでいます。

1軒目は刺身の美味い「美味」。ここで埼玉県から到着の(株)エデュケーションネットワークの名取課長と浅見喜久課長も合流。名取課長は仙台営業所長としてこのイベントを長く支えて下さっている常連。浅見課長は初参加。私塾ネットから入江先生、石川先生、仲野先生と私(畑山)の4名と古川学園高の俣野教頭ですでに7名。三陸近海で獲れた「どんこ」や「ほや」の刺身に舌鼓。...教育談義も盛り上がった20時過ぎ、岡山から新幹線を乗り継いで到着の朝日塾中高の高校開設準備室室長補佐の大西努先生が到着。初めての八戸の寒さに震えながら補助椅子を出して8名に。

2軒目は焼き魚とせんべい汁の「しおさい」へ。炭火焼き用の直径1メートル程の円形の特製釜戸をろくるように回しながら「ホタテ」や「ほっけ」をジルジル焼いてくれました。23時東京から日本航空高の校長代行篠原雅成先生と教務課長の加藤明日香先生が合流し、さらに補助椅子を入れ10名に。外は氷点下でも屋台の中は熱気でムンムン。

19時から始まった教育談義は篠原先生の参戦で盛り上がりになり、明日のイベントにやっと思いが移ったのが午前3時を回っていました。「明日

があるから」と言って前夜祭は終了しそれぞれのホテルへ。

翌日のイベントはお陰様で大盛況。参加者は200名余りでしたが、アンケートには「三者面談直前で親子ともに気を引き締めて受験に向かう気持ちを持つことができました。」「もっとたくさんの子供たちに聞かせたい。せつかくの有意義なお話もつたいたなかったです。」「入試に対する心がまえ...ていうか、もっと真剣に残りの時間勉強しようと思えました。」「どこの高校の先生も中学校の先生とはちがっていい先生だった。いろんな高校に興味もてた。」「先生方がとても優しく説明して下さって自分のためになりました。ぜひ次の学年の人にもやってほしいと思った。」などたくさんの感想が寄せられました。

16時半から閉会セレモニー。17時半からは場所を八戸グランドホテルに移し、私学の先生方14名、塾の先生方17名、教材販社から5名の合計36名が参加しての懇親会。

20時からの二次会には20名、三次会のカラオケ大会には14名の参加でこの日も24時を回り、26時に全員で「明日がある」を熱唱し解散。四次会へ数名が消えていった。「また来年も八戸で会いましょう」と笑顔で再会を誓った本当に楽しいイベントでした。連泊でお越しの皆様、本当にありがとうございました。(なんか飲み会の報告になってしまっ...申し訳ございません。)

私塾ネット関東 代表 鈴木 正之

昨年の学習塾団体忘年会、今年の情報展、合同新年会と行事が続きますが、どこにいても私塾ネットのメンバーが多いことには驚かされます。各団体の役員紹介でも約半数は私塾ネットということがほとんどです。それだけ団体としての責任も大きくなって来たということです。さて、1月14日情報展の開催日、「目から鱗の高校受験数学」として碓先生に講義していただきました。通知をだしたのが5日前の1月9日であったにもかかわらず、約30名が参加。立ち見(聞き)、さらに入れなくて断念した先生も...。久々の碓節が今でも頭の中に残っています。碓先生今度は少し長く時間を取りますから、また御願います。

お知らせ

私塾ネット名誉会員の小宮山博仁先生が、「子供の『底力』が育つ塾選び」(平凡社新書)と言う本を

出されました。塾の選び方を説明している本です。自塾の運営、塾生指導のチェックにお役立て下さい。定価720円。

私塾ネット中国 代表 北川 健治

2006年11月13日広島県竹原市のホテル賀茂川荘で恒例の私塾ネット中国の塾長忘年会が開催されました。温泉につかりながら、いつでもどこでも誰とでも情報交換座談会、友好を深める大カラオケ大会、山口会長の持ち歌「愛国行進曲」がなかったのは残念!(自回は用意いたします)毎度の事ながら山口先生、城先生が盛り上げて下さる。感謝。2007年1月13日広島ホテルニューヒロデンで私塾ネット中国1月定例会・昼食会が開催。本年度の定例会日程が決定されました。本年は河浜先生率いる広島私塾連盟創立20周年に当たるので強力に応援することを決定。また、社団法人全国学習塾協会の広島幹事長に岩井市先生が就任することが紹介され、協会とともに私塾ネットも学習塾の輪を広げべく会員増強キャンペーンに取り組みたいことも確認しあいました。また、恒例の各塾の経営情報交換では作成したばかりのチラシ、入塾案内をたたき台に新年度の生徒募集の取り組みについて質問が飛び交い盛りだくさんな定例会でした。

私塾ネット四国 代表 湯口 兼司

次年度へ向けての役員会をまだしていない段階でのエリア通信ですのでこれから書くことは承認を頂いていない私見であることを了承ください。今年『私塾ネット四国総会を東京で!』と企画したいと考えています。2007年センター総会及び研修大会は4月22日(日)に開催されます。ご存知のように昨年10月に開催された『塾の日in TOKUSHIMA』には私塾ネットセンターはもとより全国からたくさんの仲間が駆けつけてくれました。その御返しという訳でもないのですが、以前からセンターの総会にみんなで行くのも良いねっ、との声も四国の仲間からあがっていました。旧全塾連時代には四国独自のイベントはほとんどなく毎年東京の総会に参加するか、中国支部のイベントにジョイントさせてもらうかでした。私塾ネット四国になってからは毎年エリアでの研修会等を企画し、みなさんに参加協力して頂き四国内の結束は高まったと考えています。またその四国のイベントに毎年私塾ネット関東、中国から応援に来て頂き、我々四国のメンバーの素晴らしいところも見てもらい、全国的な結束も高まりつつあると感じています。そこで『今年私塾ネット四国の総会を東京で! 全国大会に参加しよう!』と私は考えるのであります。研修部長の田中先生に聞くと今年の研修会もすごい人が来てくれるそうです。四国だけでなく全国のエリアのみなさん、今年の4月22日東京でお会いするのを楽しみにしています。今年も宜しく願いいたします。

私塾ネット関東 加藤先生投稿記事

私塾ネット 教務部部长 加藤 実

平成18年10月9日徳島行きの帰路の車内で、私が8歳で逝った娘の話を何かの拍子に少しお話したところ、非常に関心を持たれ、ぜひ原作を読みたいと。で、帰宅後昭和63年4月10日から平成4年5月10日まで全塾連東支部広報に連載されました「優子よ、永遠に！」を編集してコピー、平成18年10月19日に仲野先生宛にFAX送信致しました。10月22日に早速仲野先生より「読んでいて胸が詰まりました」との感想をいただきました。また「この文章をみんなに伝えたい」というご意見も頂戴しました。今回の依頼はその線上にあるのではないかと理解し、このような手記を書いております。

次女優子（当時小学2年生）の状態が異常であることにはっきりと気づいたのは昭和62年11月21日（土）のことです。学校帰りの優子と途中で出会ったとき、歩きがおかしいのです。「どうした？」「足が痛い！」「足が痛い？それはまずいね。お医者さんに行こうか？」。翌22日（日）当番医の鈴木小児科医院へ。「小児リュウマチかな？」と頼りない返事。27日に血液検査の結果が出るのでそのときにまた来てくださいとのことでした。11/23（勤労感謝の日）「森の木児童合唱団」のソリストとして抜擢された優子はこの日の夕方レコーディングの仕事が入っていて、「どうしても行く」と言っていたのですが、とても行けるような状態ではありません。「また今度あるから」と慰めて中止しました。このときはまだ歌だけはしっかり歌えたのです。そして二度と歌うことはなかったのです。無理しても連れて行けばよかったと後悔しております。優子のレコードが残ったのにと。悔やんでも悔やみきれません。認識が甘かったのです。まさか今の現代医学では打つ手なしの「脳幹腫瘍」だなんて、思ってもいませんでした。癌に関してはかなりの知識があると自負していたのに、それをあざ笑うかのような病魔がわが愛娘に襲いかかっていたのです。11/24（火）尾久の女子医大第二病院へ。2004年12月2日に私が「そけいヘルニア」の手術を受けた病院です。万一手術に失敗しても、優子が亡くなった病院なら本望の覚悟で入院したのでした。優子は即緊急入院となり、これまた割り込みで即CT検査。その日のうちに「打つ手がありません。お気の毒です」との宣告。なんということでしょう。そんな馬鹿な話があっただいではないのでしょうか？まだ7歳ですよ。人生これからではないですか。生まれたときから喘息もちの虚弱体質の私がまだ生きているというのに。それから優子が天国に召された昭和63年5月11日まで私たちと優子の必死の闘病生活が続くのです。ク

リスマスも正月ももちろんありません。毎日毎日必死の闘いが始まったのです。「闘い」といっても脳圧を下げるための治療、腫瘍を少しでも縮小させるための放射線治療、栄養補給の点滴程度しかできないわけです。小6と中3受験の追い込み期。教室内では落ち込むことは許されません。全力で指導に当たらなければならないのです。厳しい毎日が続きました。昭和62年12月13日（日）山本直純の「ファミリーコンサート」本番の録画撮りが昭和女子大学人見記念講堂であったのです。優子と仲良しの大沢さんが「あれっ、優子ちゃんは？」と。「ちょっと具合が悪いので休ませてもらいました」と。晴れの大舞台だということに出不来ないのです。肺癌検査のために名古屋から上京していたオフクロ（優子を追うように昭和63年7月1日逝去）と11/24に珠光会診療所へ。「残念ですが脳幹腫瘍のワクチンはありません。自家ワクチンを作るしかないのですが三ヶ月はかかります」と。最後の望みが断たれました。丸山ワクチンもやりました。新興宗教にも入信しました。ありとあらゆることをしました。何もしないで優子の死を待つことは出来ないのです。必死でなんでもやりました。しかし、その努力もむなしく優子は昭和63年5月11日夜11時、静岡のおばあちゃん、おじいちゃん、親戚の方々も見守る中、静かに天に召されました。優子は障害が残ってまで生きることが拒否したのでした。きっとそうです。私たちはこの厳しい現実を抱えて生きていかなければなりません。神が私たち夫婦に与えた試練の一つなのでしょう。優子の生きた証は優子が通学していた荒川区立第四峽田小学校の図書室に「加藤文庫」として残っています。毎年5月11日の命日に寄付し続けています。もうすぐ19回目の命日が来ます。長女愛子（28）は所帯を構えて豊田市に、長男健（24）も自宅から勤務、最悪の状態の私たちに光を与えてくれた次男孝は今高校一年生で、皆頑張って生きています。

拙い文章を読んでいただいて感謝！



各 部 報 告

教務部 私塾ネット教務部部長 加藤 実

教務部では原則毎月勉強会を行っています。まず塾に求められるものは「確かな授業」であると考えているからです。若手の教員の積極的参加を望みません。

11/13(月)18年度第6回勉強会(通算15回)午前10時~正午「ハイライフいたばし」

大河原先生の「相当算」、渡辺先生の「口語文法第6回 動詞」。模擬授業形式で行いました。「相当算」は割合の基本がしっかり身に付いてないととんでもない式を立ててしまいます。基礎をしっかり確認しながら応用・発展に進んでいく授業展開に工夫が必要なわけです。豊富な資料は好評でした。ただ授業内容に関しては少々不満の残るものがありました。資料は家で読めば分かることなので、書かれていない算数の「真髄」なるもの、間の取り方とか、子どもをひきつける授業展開とか、そういうものを期待していたのだが。「文法」の授業は退屈なもの。その退屈ではあるが、日本語の基本原則を理解させるといふ大事な授業をどう展開し、どう理解・記憶させていくか。教師の腕のみせどころとなるわけです。テキストをただ読んでいるだけでは駄目なのです。渡辺先生の若さあふれる、そしてなんとか理解してもらおう、覚えてもらおうという情熱がひしひしと感ぜられる授業展開でした。今後さらに期待したい。

12/18(月)18年度第7回勉強会(通算16回)午前10時~正午「ハイライフいたばし」

大河原先生の算数は「割合と比の文章題」および「参考プリント ニュートン算の由来」。比が絡んでくると途端にわからなくなる子どもが多い。その点をうまく説明されていたと思う。ただ今回も途中で説明がわからなくなったり、プリントに頼った授業展開は今ひとつ不満であった。プリントはプリント、授業は授業でプリントに書いてあることとは違った視点で授業して欲しかった。手元にプリントがなかったらどういう授業展開になるのであろうか?大変心配になってしまった。大河原先生は算数・数学の大家でいらっしゃるの、今後機会があればプリントなしの即興模擬授業をお願いしたいと思っています。さて「口語文法」ですが、渡辺先生のお子さんが入院されて心配ということで、急遽若手の三井先生が代役に立たれました。「形容詞と形容動詞」の模擬授業でした。「形容動詞」の判定はなかなか難しいものがあります。「名詞+断定の助動詞『だ』」との区別がつけにくいということです。この辺はしっかり勉強しておいて欲しいと思います。それ以外は射た授業展開だったと思います。これからも頑張ってください。

渉外部 私塾ネット渉外部長 佐藤 勇治 各団体10月下旬 - 1月中旬までの主な活動報告

(1) 全日本私塾教育ネットワーク(私塾ネット)

私塾ネット関東 第31回 定例会及び第22回定例研修会 11月9日
私塾ネット関東第32回定例会及び第23回定例研修会 12月14日

(2) 全日本学習塾連絡会議

第5回全日本学習塾連絡会議世話人会 11月28日
内 容
1、ブリティッシュ・コロンビア大学助教授 ジュリアン・ディルケス氏 「学習塾の調査・研究」依頼について
2、各団体の行事予定について
(学習塾団体合同忘年会、塾に役立つ情報展、学習塾合同新年会、その他)
第80回全日本学習塾連絡会議 12月3日

内 容
1、ジュリアン・ディルケス氏(コロンビア大学助教授)に下記6塾を推薦
いぶき学院、ナカジユク、武蔵野実践学舎、LAPIS鎌ヶ谷、青藍学院、菅原進学教室
2、各団体の行事報告と予定の説明(各団体の案内を配布)
3、当日の研修会と合同忘年会の確認

(3) 社団法人・全国学習塾協会

塾の日フェスティバル2007 作文コンクール
文部科学大臣のお願い「未来のある君たちへ」(いじめ 対策通達文)の配布
学習塾に通う子どもの安全確保ガイドラインF A Q(よくある質問)

(4) 全国学習塾協同組合(AJC)

塾に役立つ情報展in東京 1月14日

・内 容
ミニセミナー参加企業9社、出展企業38社。私学、企業、学習塾関係者の参加者数は昨年を大幅に上回り、終日来場者で賑っていました。

(5) NPO法人 学習塾全国連合協議会(塾全協)

第32回塾全協研修大会 11月3日
2007年学習塾合同新年会 1月14日

(6) 東京私塾協同組合

民間教育指導師 ・ 種々検定試験11月5日
塾団体合同忘年会 12月3日
合同忘年会 18:00 - 20:00

(7) 千葉学習塾協同組合

年末一泊研修 12月3日 - 4日
季刊誌「JACの広場」(冬季号)
教材・教具展(会場:三井ガーデンホテル船橋ららぽーと) 1月19日

私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長 仲野十和田

昨年4月23日、私塾ネット全国研修でアビトレの木下晴弘先生の講演後、千葉と東京で引き続きセミナーが行われていますが、余すところあと1回となりました。

当初は初回の印象が強かったので、弱冠期待を少なめにして望んだのですが、参加するたびに驚きと新たな感動をもらいます。第9回目(1/17)のテーマは「経営品質」。印象に残ったことの1つに、「CS(顧客満足度)より大事なことはES(従業員満足度)である」ということがありました。従業員を如何に満足させているか?それは金銭的なものだけではありません。セミナーの最後に北九州にある「バグジー」という美容院の取り組みについてのビデオを見せてもらいました。見るからに今風の美容師の若者たちは、来てくれているお客さんに最高の気分で過ごしてもらうことに全力を注ぎます。お客さんは、「この美容師さんは誰よりも自分のプライベートのことを知っている」と言います。ミー

ティングでは盲目的少女をテーマにしたちょっとした感動話を読ませます。朗読している青年は涙声になります。周りもその感動に触れていきます。「感動する人間と売り上げは比例する。今回泣きながら読んでいた人は年間約2500万円を売り上げる」と、経営者は言います。そして、経営者はスタッフの誕生日には丁寧な手紙を書きます。そして、この会社はスタッフが自由に計画をたて、様々なことに取り組んでいます。唯一許されないことがあります。それは「入社式、夏のBQ合宿、クリスマスの施設訪問の欠席」ということです。このことがバグジーの全てを物語っているような気がしました。

好評に付き、来年度も東京で同じセミナーが開催される予定です。塾長はもちろん、スタッフの方のご参加も是非どうぞ!詳細は後日ご連絡いたします。

昨年も私塾ネットの活動の中で、様々な出会いと感動をいただきました。今年も宜しくお願い申し上げます。

閑話休題

理事長 谷村 志厚

週刊誌の「暴言」にあきれる

山口先生もご挨拶文でふれられていたが、サンデー毎日2月4日付けの「塾業界からジャブジャブと献金を貰う云々…」という記事は、まことに不愉快なものであった。まさに「いいがかり」という程度のものだが、週刊誌の表現は扇情的であらぬ誤解を招くものである。記事中に「塾業界から大臣を出したい」との小見出しをつけ、塾業界との「灰色癒着」と結び始末。安倍内閣「いじめ」のタイミングとあいまって、なにやら政治的に悪意のある記事のにおいがぷんぷんしている。まあことを荒立てる必要もないが、ご興味のむきは下村代議士のホームページに反論が掲載されているので閲覧ください。

教育再生会議第一次報告に思う

1月24日、教育再生会議の第一次報告が公表された。初等教育を中心とした、7つの提言と4つの緊急対応からなる報告である。7つの提言は、教育内容の改革、教員の質の向上、教育システムの改革、「社会総がかり」での全国民的な参画の4つの柱で構成されている。一方緊急対応は、いじめ問題対応 教員免許更新制導入 教育委員会制度の抜本改革 学校教育法の改正の4つである。提言の2番目にある「学校を再生し、安心して学べる規律ある教室にする」の具体的な指示通知のひとつが、5日文科省から発信された「体罰に関する基準」である。ここに示された7つの事例をみて、思わずうなってしまった。体罰にあたらぬものの事例の概要はこうである。放課後の居残り指導 授業中の起立 罰として課題や掃除当番を与える 立ち歩きの子をしかって席につける ほかの生徒の邪魔をする者を別室で指導する 授業中の携帯電話を禁止

し一時的に預かる 暴力を振るう子どもから身を守るため、力を行って子どもを制圧する と以上である。これには驚いた。あえて事例として公表するといくことは、これまでこれらのことが体罰あるいはそれに類するものとして自己規制されていたということである。これでは先生方はがんじがらめであまりにも不自由、関連な授業やクラス運営におおきな支障であり、これでは教師としての権威など育つわけがない。公立学校教育なかんづく公教育の限界の一面を実感させられた。その点われわれ私塾の世界はどうか。自己責任ではあるが、なんとまあ自由な環境にあることか、ありがたいことである。再生会議で「塾を禁止しろ…」と発言をされたえらい先生がおられるようだが、こんな硬直した公立学校教育だけで子どもたちの教育が完結するとお考えなら、時代錯誤もはなはだしいといえる。学校教育と民間教育をいかに連携させ教育成果を高めていくか、論点はそこであろう。

いぶき学院10周年パーティに出席して

2月4日、関東代表鈴木正之さんのいぶき学院の設立10周年パーティーに出席をさせていただいた。これまでいぶき学院を支えてこられた、講師や職員の皆さんの慰労のための集まりなので派手さはないが、なごやかでアットホームな会であった。鈴木さんの優しい心遣いが随所にちりばめられ、旧来の設立記念祝賀会とは一味ちがう素敵なものであった。会場は品川プリンスホテル39階のレストラン「トップオブ品川」のパーティ個室。ここは4月の私塾ネット全国研修会の二次会を予定しているので下見代わりにもなった。この日は冬日和の一日。おりから富士山に落ちる夕日を借景に、豪華で楽しいひとときを満喫させていただいた。

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校 03-3376-2244
 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
 村山 サトウ先生
江戸川学園取手中学高等学校 0297-74-8771
 〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
 竹澤 賢司先生
十文字中学高等学校 03-3918-0511
 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
 卯木 幸男先生
東洋高等学校 03-3291-3824
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
 齋藤 元治先生
桜丘中学高等学校 03-3910-6161
 〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
 品田 健先生
聖徳大学附属中高等学校 047-392-8111
 〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
 川並 芳純先生
麹町学園女子中高等学校 03-3263-3014
 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
 伊藤 暁先生
春日部共栄中学 048-737-7611
 〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
 宇野 禎弘先生
大成高等学校 0422-43-3196
 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
 森 保先生
東京学園高等学校 03-3711-6641
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
 須藤 勉先生
東京立正中学高等学校 03-3312-1111
 〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
 藤井 教戒先生
八雲学園中学高等学校 03-3717-1196
 〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-14-1
 横山 孝治先生
関東第一高等学校 03-3653-1541
 〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
 副田 康孝先生
武蔵野中学高等学校 03-3910-0151
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
 福澤 清一郎先生
神田女学園中高等学校 03-3291-2447
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
 後藤 久夫先生
和洋国府台女子中学高等学校 047-371-1120
 〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
 太田 陽太郎先生
東京文化中学高等学校 03-3381-0196
 〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
 上前 善勝先生
英数学館中学高等学校 084-941-4115
 〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
 和田 淳先生
文京学院大学女子中学高等学校 03-3946-5301
 〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
 水上 茂先生

京北学園中学高等学校 03-3941-6253
 〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
 実方 隆志先生
大森学園高等学校 03-3762-7336
 〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
 河嶋 正先生
東京成徳大学中学高等学校 03-3911-2786
 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9
 増澤 文徳先生
日本工業大学附属中学東京工業高等学校 03-3467-2130
 〒153-8508 東京都目黒区駒場1-35-32
 河村 文夫先生
青稜中学高等学校 03-3782-1502
 〒142-8550 東京都品川区二葉1-6-6
 多々良 昭典先生
東京女子学園 03-3451-6523
 〒108-0014 東京都港区芝4-1-30
 実吉 幹夫先生
安田学園中学高等学校 03-3624-2666
 〒130-8615 東京都墨田区横綱2-2-25
 福谷 隆芳先生
多摩大学目黒中学高等学校 03-3714-2661
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-10-24
 福本 明男先生
駒込中学高等学校 03-3828-4141
 〒113-0022 東京都文京区千駄木5-6-25
 河合 孝允先生
爱国中学高等学校 03-3658-4111
 〒133-8585 東京都江戸川区西小岩5-7-1
 高橋 英夫先生
日本橋女学館中学高等学校 03-3662-2507
 〒103-8384 東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6
 羽田野 敦先生
日本音楽高等学校 03-3786-1711
 〒142-0042 東京都品川区豊町2-16-12
 中野 道代先生
立正中学高等学校 03-3492-4416
 〒141-8577 東京都品川区大崎4-2-16
 今田 正利先生
科学技術学園高等学校 03-5494-7542
 〒157-8562 東京都世田谷区成城 1-11-1
 高塚 聡先生
株式会社パイロットコーポレーション 03-3538-3782
 〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21
 辻 豊様
株式会社教育企画ティーファイブ 03-5479-7061
 〒140-0001 品川区北品川1-22-17 ニックハイム104号
 山田 孝幸様
株式会社創開コミュニティ 04-7164-6511
 〒277-0005 千葉県柏市柏3-4-25 小溝ビル
 小林 和光様
㈱アズサコーポレーション 03-3477-2011
 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町29-31
 石野 ゆかり様
株式会社プロケア 03-5913-5811
 164-0001 中野区中野4-11-10 アパネット中野ビル
 笹井 厚子様